

平成30年度

学校関係者評価報告書

令和元年7月

学校法人筑波研究学園  
成田つくば航空専門学校

## ○平成30年度 学校関係者評価報告書について

成田つくば航空専門学校は、「工業分野」の専門課程の認可を受けた専修学校として、わが国の航空産業諸分野の中核を担う優れた人材を育成し社会の発展に寄与することを目的として運営されています。また、平成26年度に文部科学省から「職業実践専門課程」と認定された航空整備学科、およびグランドサポート学科では、航空分野の諸企業との密接な連携のもとに、「学校運営の適正化」および「教育内容の充実」が図られています。

本校では、平成25年4月に定めた「自己点検・評価規程」に従って、学校自己点検・評価委員会を設置し、「専修学校における学校評価ガイドライン」に沿って本校の運営および教育活動について自己点検・評価を実施し、真摯に学校評価に取り組み、現状の把握、課題及び今後の改善策を協議検討してまいりました。

以下、先般開催した学校関係者評価委員会の点検・評価について報告します。

### 1. 学校関係者評価委員会 実施日時・場所

令和元年6月7日（金） 14:00 ～ 16:00

成田つくば航空専門学校 E22教室

### 2. 学校関係者評価実施方法

#### (1) 実施組織：学校関係者評価委員会

##### ○評価委員

渡辺浩一郎	公益社団法人 日本航空技術協会	事務局長
福田和磨	株式会社 JAL エンジニアリング	総務部統括マネージャー
小野友軌	株式会社 IHI 航空・宇宙・防衛事業領域	瑞穂工場 武蔵総務部主査
日改正明	金属技研株式会社	成田工場 工場長
大木直人	株式会社インテックス	業務部業務課 課長
寺田恵美子	取手市小堀地区	区長
高橋朋世	成田つくば航空専門学校	保護者代表
丹羽由紀子	成田つくば航空専門学校	保護者代表
今村吉宏	成田つくば航空専門学校	卒業生代表
古橋亮祐	成田つくば航空専門学校	卒業生代表

##### ○学校関係

柿崎明人	成田つくば航空専門学校	校長
志賀宏	筑波研究学園法人本部	事務局長
山本卓二	成田つくば航空専門学校	副校長
春日由光	成田つくば航空専門学校	事務部長
久保嘉孝	成田つくば航空専門学校	航空整備学科長
佐藤宣知	成田つくば航空専門学校	グランドサポート学科長
染谷敏文	成田つくば航空専門学校	総務課長
藤井伸一	成田つくば航空専門学校	教務部長

- (2) 評価基準：文部科学省「専修学校における学校評価ガイドライン」に準拠
- (3) 評価方法：平成30年度学校自己点検・評価報告書に対する学校関係者評価

3. 自己評価は、以下の10項目を実施しました。

- (1) 教育理念・目標
- (2) 学校運営
- (3) 教育活動
- (4) 学修成果
- (5) 学生支援
- (6) 教育環境
- (7) 学生の受入れ募集
- (8) 財務
- (9) 法令等の遵守
- (10) 社会貢献・地域貢献

4. 評価項目に対する評価

- (1) 次の4段階(\*)をもとに「学校自己点検・評価報告書」の各評価項目の平均点を小数点以下第1位までを評価。  
(\*) 4段階：適切-4、ほぼ適切-3、やや不適切-2、不適切-1
- (2) 委員会でも出された意見や質疑、提案事項を記載。

5. その他

平成30年度 学校自己点検・評価報告書を併せご覧ください。

## 評価項目の達成及び取組状況

### (1) 教育理念・目標 評価 4.0

- ・ 学校の理念・目的・育成人材像は、明確になっており、適切に公開されている。
- ・ 社会経済の状況と航空業界、及び地域社会のニーズと将来性を見据えた将来構想を策定している。

### (2) 学校運営 評価 3.8

- ・ 学校運営は、目的に沿った運営方針の基、適切に運営されている。
- ・ 事業計画は、将来構想、教育活動の実績を踏まえて策定されている。適切な人員計画を基に人財確保に努めているが、苦慮している状況である。
- ・ 学校運営は、地域とのつながりが非常に重要であり、継続した取り組みが必要である旨の認識を共有することとした。

### (3) 教育活動 評価 3.8

- ・ 教育課程は、教育理念を踏まえ、教育課程編成委員会、関連行政機関・第三者機関等から提言を受けたうえで、設定や見直し等を実施している。
- ・ 学科は、各専門分野の企業と連携し、年度計画を基に外部実習や外部講師による演習授業を導入して職業教育の充実を図っている。
- ・ 今後、航空技術協会や無線協会など専門分野に関する研修への参加を計画し、更なる能力開発に努めていく。
- ・ 若手教員確保の課題に対し、連携企業との間で教官育成プランの構築等の連携を模索し、あらゆるリソースの展開を検討することとした。

### (4) 学修成果 評価 3.8

- ・ 平成30年度就職内定率は100%（就職希望対象者）であった。今後も引き続き第一志望企業への100%就職を目指し、補習教育・通常授業外面接指導を強化していく。具体的な施策として、SPI専任教官のアサイン、面接指導、企業研究、就職に有利な資格の取得等、就職指導の内容を向上させていく。
- ・ 資格ごとの合格率と学習効果を評価し、教材の変更や教え方の改善を常に行っている。グランドサポート学科では、DIPLOMA基礎の資格取得率は100%を維持している。航空整備学科では、放課後・休業期間中に資格試験対策授業を実施し、合格率向上に繋げている。又、英語検定の受験促進を促す指導を行った。

### (5) 学生支援 評価 3.8

- ・ 進路、就職に関する担当部長、学科ごとの就職担当者を配置しており、求人情報の閲覧スペース、企業対応のため進路指導室を設置している。求人情報掲示板を設置し、学生の目に触れる機会を増やした。求人情報は管理されており閲覧可能な状態である。
- ・ 学校医と連携した学生の健康管理を担う組織体制は整備されているが、将来的に休養室の設置を検討する。（令和元年6月設置済）
- ・ 学生の経済的支援について、高校の成績による入学金免除制度、日本学生支援機構奨学金、茨城県奨学資金、教育ローン等の支援体制があり、募集要項に明示している。
- ・ 部活動が出来ない現状を踏まえ、主体性を持って行動する機会の確保を提案され、スポーツ大会/N-TAC祭を通じて、その機会を確保することとした。

**(6) 教育環境** **評価 3.7**

- ・ 二等航空運航整備士・基本技術Ⅰの指定養成施設としての施設・設備は整えられた。次のテストコース（基本技術Ⅱ）へ向けた施設・設備の充実に向け整備中。
- ・ 地震・火災を想定した防災訓練は年3回実施している。パッケージ型の消火設備の充実等、出来る限りの対応を行っている。

**(7) 学生の受け入れ募集** **評価 4.0**

- ・ 学生の募集活動に関し、広報活動の範囲と入学生の出身範囲について質問があり、平成30年度は、活動範囲エリアを関東圏に絞って行い、全国に対してはWeb, SNSを活用している。出身範囲は、茨城・千葉を中心に関東エリアがメインで、全国各地から来ている。
- ・ 職業実践専門課程の連携企業との見学会を企画し、効果的な募集活動に繋がった。
- ・ 魅力ある体験入学になるよう、スペシャルイベントの企画、初回/リピーター等参加者に合わせて体験実習内容を柔軟に変更して実施した。

**(8) 財務** **評価 3.7**

- ・ 法人全体として財務基盤安定化に向け取り組んでいる。
- ・ 財務基盤の安定には、入学者確保や退学者の低減、経費節減に努めていかななくてはならないことを全教職員の共通理解として取り組む。

**(9) 法令等の遵守** **評価 3.7**

- ・ 学校法人で定めている個人情報管理規程をもとに、個人情報の取り扱いに関する体制・基本ルール、保有する情報の紛失、漏えい、改ざん等を防ぎ、情報管理に関する社会的責任について教職員の共通理解を再徹底する。

**(10) 社会貢献・地域貢献** **評価 2.8**

- ・ エプロンを緊急時のドクターヘリ・災害ヘリの離着陸場とし、校舎を災害時の避難場所として地域へ便利供与している。又、毎週金曜日に実施している学校及び周辺の美化、環境整備等を積極的に行っている。
- ・ ボランティア活動については、学生個々にて実施しているが、今後は積極的に学校全体として奨励、支援していく必要がある。
- ・ 今後、社会人向けの講習会や講師派遣の体制を整備・検討していく。また、地域貢献のために各種国家試験会場提供や、地元の小・中学生を対象とした職業観の育成に役立つ講座等を検討していく
- ・ 社会貢献・地域貢献に関し、地域のイベントへの参加/ボランティアを通して貢献することを検討することとした。

以上